

# より多くの方がみやぎを楽しめることを目指して

## —障害者・高齢者の旅を後押しする取組と今後について—

発表者所属・職・氏名 リハビリテーション支援センター 技師 武田 輝也

Key words : 旅行, 合理的配慮, ユニバーサルツーリズム

### I はじめに

高齢化社会を背景に、何らかの障害を持つ方が増加している中、旅行や観光をこれまでどおり行いたいと望む方は多いが、当事者・家族も含め旅行に行くことを諦めることが多いのが現状である<sup>1)</sup>。そこで、障害のある方や家族・支援者の目線に立ち、旅を後押しするパンフレットの作成やシンポジウムの開催等の取組を行ったので、今後の展望も含め報告する。

### II 活動内容（平成 26 年度～平成 27 年度）

#### （1）「障害のある方・高齢の方とご家族のための旅行サポートブックみやぎ」の作成

NPO と協働で、県内外の現状の把握を行いながら企画、作成を行なった。

- ①サポートブック作成検討委員会（保健医療福祉関係者・NPO 等で構成）の設置・開催
- ②障害のある方が県内の観光地を訪れた事例や県内の相談機関等の取材、原稿執筆、編集
- ③サポートブックの発行（印刷・送付及びホームページへの掲載）

#### （2）「みやぎユニバーサルツーリズムシンポジウム」の開催（県観光課と協力し観光施設等に周知）

県庁講堂で保健医療福祉関係者・観光関係者等 110 名が参加し、開催した。

- ①神戸ユニバーサルツーリズムの取組紹介/当事者も家族も楽しめる旅行の仕組みづくりについて
- ②宮城県内における当事者の現状及び活動している機関等の取組を共有/パネルディスカッション
- ③旅をより楽しむための福祉機器の展示・体験、情報提供・相談コーナーの設置

### III 考察

サポートブックの作成やシンポジウム開催を通じて、障害のある方・その家族と旅行に関する問題の所在や県内の資源の状況が明らかになった。

表 1 サポートブック作成を通じて把握された県内の状況について（ヒアリング・検討委員会）

分類	状況・問題点について	あるべき姿について
当事者及び家族の状況について	高齢者の多くは旅行に関する興味や関心は高い一方で、障害を持つと行うことができている方が多い。 障害に応じた相談先や宿泊先についての情報が得られにくい。	当事者自身が旅行や外出の希望が伝えられ、家族・支援者と旅行に関する情報が入手でき実際に行うことができる。
保健医療福祉関係者の状況について	障害福祉サービス事業所等では余暇支援で旅行を実施。行く先の選定や実施に苦慮している。 旅行を通じて社会参加の拡大を図ることができるが、それぞれの機関の関わりだけでは支援が難しい。	観光施設と福祉・医療とつながりができ旅行者を迎え入れるような仕組みづくりが望ましい。
観光関連（宿泊施設・観光施設）支援機関の状況について	車椅子の利用を想定したバリアフリー客室などの肢体不自由に対するハード面の整備は徐々に進んでいるが、その他の障害については受け入れや理解が進んでいない。 障害がある方をどのように案内したらよいかわからない。 高齢の方や障害のある方様々な方にもっと楽しんでもらいたいと思うが方法がわからない。コストが気になる。	宿泊施設や交通機関等のハード面に加えて、接遇や接客などのソフト面の整備が進むこと。 障害のある方や家族からの相談先が現状ではないため確保が必要

本取組は、当事者、旅行支援に取組む NPO、県観光課や観光施設・公共交通機関等の協力を得ながら進めた。宮城県内の旅行を楽しむために解決すべき課題、保健医療福祉関係者や地域（観光地）がより多くの方が楽しめることを目指し取組む際の必要な視点、医療福祉の立場から対応が可能な取組についての示唆が得られた。

### IV 結論

障害のある方及びその家族の旅行について県内の状況を踏まえ、旅のきっかけづくりとなることを目指して啓発を中心に取組を行った。取組状況を踏まえ、今後は本事業で関わった関係者と引き続き協力し、加齢・障害の理解、旅行場面で一人ひとりがどういう配慮を望んでいるかを理解した上で適切な接遇・合理的配慮を学べるマニュアルの開発、開発したマニュアルを活用した研修会のモデル実施を計画している。

### VI 引用・参考文献

- 1) 観光庁観光産業課（2012）「ユニバーサルツーリズムにおけるサービス提供に関する調査報告書」（<http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/sangyou/manyuuru.html>）